

## 私とおじいちゃん的时间

王 曄子<sup>おうこ</sup>

私の大好きなおじいちゃんはアルツハイマー病になっている。昨日起こったことでもおぼえていられないほど病気が進行している。つい最近家族で高尾山に登ったことを写真で明らかにしても、

「ここどこ？行ったことないよ。」

と言う。孫の私の名前も実の息子である私のお父さんの名前すら思いだせなくて大切な人ということしかもう分からなくなっている。

今より少し前、まだそこまで病気が進行しなかつたとき、私の家に1年ぶりに遊びに来たことがあった。そのときおじいちゃんは、

「おじいちゃんのこと忘れてないかな？」

と言っていた。

「忘れるわけないでしょ。」

そう答えた私。今のおじいちゃんにはもう分からないが私の頭の中にはおじいちゃんとの思い出がいっぱいある。例えば、まだ幼い私を片手にだっこしながら急に落ちてきた時計をもう片方の手で見事にキヤッチしたこと。また、大きな公園で迷子になり泣いていた私を一番最初に見つけてくれて手をにぎりしめながら家に帰ったこと。思い出が私のなかだけに残されている。おじいちゃんに話してもただ首をかしげるだけ。数え切れないほどの思い出がおじいちゃんの中には残されてい

ない。思い出すたびに涙がでてくる。世界でたった一人しかいない私だけのおじいちゃん。私の名前もおじいちゃんが絶対に「ようこ」がいいって言ってつけたんだよね。日本で生まれ育った中国人の私。おじいちゃんの大好きな日本と中国のかけ橋になってほしいという願いのこめられた名前。私ね、他のどんななれんですてきな名前よりも「曄子（ようこ）」の名前が大好きなんだよ。ありがとう。

おじいちゃんのアルツハイマー病が進行している今、現在の瞬間私のことを忘れてしまったかもしれない。でも私思うんだ。たとえ私のことを忘れたとしても私はいつまでもおじいちゃんのことを大好きだからそれでいい。どんなときも私のことが分からなくてもそばにいてくれるならそれでいい。そうなるときがいつくるのか分からないけれどそれまでの残された時間を一緒に楽しくすごそうよ。おいしいもの食べて色んなところに行つて。今までの思い出はちゃんと私のなかに残されてるから忘れることはないよ。

そして私はおじいちゃんに言う。

「ずっとずっと一緒にいようね。私の大好きなおじいちゃん。」

意味が理解できてるかどうかは分からないけれど言われて少し笑つたおじいちゃん的笑顔が大好きだよ。私のそばにいてくれて、ありがとう。おじいちゃん。